朝日新聞　2020年1月27日

安曇野に日展が来る！

豊科近代美術館 4月25日から

「地域文化振興のテストケースに」

日本最大の総合美術展覧会「日展」が4月から5月にかけ、安曇野市の豊科近代美術館で開催されることになった。通常は東京や京都、大阪、名古屋などの大都市や県庁所在地を巡回する日展が、人口10万人弱の地方の街を会場にするのは極めて珍しいという。

日展は、1907（明治40）年に第1回が開催された官主導の「文部省美術展覧会」（文展）が起源。帝展、新文展、日展と名称を変えながら日本の美術界をリードしてきた。現在は日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の5部門に分かれ、公益社団法人が全国から毎年作品を公募している。

県内では長野市や松本市で開催したことはあるが、安曇野市は初めてだ。

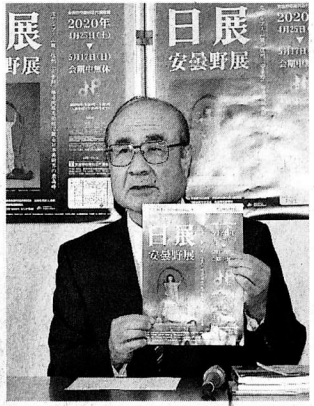
「開催にあたり、『地域の文化振興を図るためのテストケースに』という言葉があった。北アルプスや田園などの風景が美しい安曇野の魅力に加え、漆芸家の高橋節郎や彫刻家の荻原碌山の生誕地であることも開催地に選ばれた理由ではないか」。こう話すのは、豊科近代美術館などの指定管理者を務める安曇野文化財団の長崎大幸理事長。3年ほど前から安曇野での開催を日展の理事らに働きかけてきたという。

会場の豊科近代美術館は1992年に開館した。洋風の建物には中庭があり、回廊のような通路にも作品が展示されている。そこを最大限活用し、今回の改組新第6回「日展」の入選作品などから厳選した246点と、県内作家らによる70点が展示される。

安曇野市制施行15周年記念事業で、ポスターやチラシの宣伝文句は「修道院風美術館で観（み）る日本美術界の最高峰」。京都、名古屋、大阪に続いての開催は4月25日から5月17日まで、会期中は無休。この後、金沢、長崎を回る。

当日券は一般千円、高校・大学生など600円。同美術館（0263・73・5638）やセブンチケットなどで前売り券（一般800円、高校・大学生など500円）を販売中。（羽場正浩）

会場となる豊科近代美術館の入り口。奥に北アルプスを望む＝いずれも安曇野市



「日展安曇野展」の説明をする安曇野文化財団の長崎大幸理事長